



発行：がん診療推進委員会 発行元：がん診療支援室

秋にはたくさんのイベントがあり、多くの方に参加頂きありがとうございました。



10月10日（土） 世界ホスピス緩和ケアデー記念県民公開講座（彦根）

ホスピス緩和ケア週間の最終日に、県民のみなさまを対象に「大切なことをみんなで話そう」をテーマに講座が開催されました。がんとわかったときにどう取り組むか、グループワークで“大切にしたいもの”として、「自分の気持ち」「緩和」「きずな」「やりたいこと」などたくさんの内容が話し合われました。また各職種からのパネラーとして参加し、県民の方とのディスカッションが活発に行われ、相談窓口や緩和ケアチームのことを知っていただく機会ともなりました。（垣見）



10月18日（日） ピンクリボンながはま2015（豊公園 噴水広場）

さわやかな秋晴れの下、豊公園噴水広場にて開催されたピンクリボン運動に参加しました。当院は10名のスタッフが乳がんに関する資料を配布しました。

配布した方から「明日検診受けます。」という声をきくことができました。

この啓発イベントをきっかけに、今後も多くの方ががん検診を受けてくだされば幸いです。（澤田）



10月24日（土） リレーフォーライフ しが（近江八幡休暇村）

20名近い多職種の方の参加協力で、無事にウォークに参加することができました。産経新聞に掲載されましたので、下記の記事をごらんください。



11月14日（土） がん講演会 「気軽に相談を～がんとくらし～」（長浜赤十字病院）

悪天候の中、14名の参加がありました。後半の語り合いの場では、前半の講義を受けて、くらしにまつわるさまざまな話題が飛び交いました。病気にならなければ気がつかなかったこと、出逢わなかった人がいて、それらから生きる力をもらっていると、前向きなみなさんの姿勢に、こちらが元気をもらいました。（寺村）



「一緒にがんと闘おう」

支援者ら励まし合い、たすきつなぐ

近江八幡で24時間リレーウォーク



がん撲滅を願い、歩き続ける支援者ら

国内でも毎年40カ所以上で開催されており、県内では昨年初めて休暇村近江八幡で開催。約1200人が参加し好評だったことから、今年も同会場での開催を決めた。

がん撲滅を願って24時間歩き続けるチャリティーイベント「リレー・ウォーク・ジャパン2015」が24日、近江八幡市沖島町宮ヶ浜の保養施設「休暇村近江八幡」で始まった。患者やその家族、支援者らが互いに励まし合いながら、たすきをつないだ。25日まで。

イベントは1985年、米国人外科医が「がん患者は24時間がんを闘っている」というメッセージを掲げて病院のグラウンドを24時間走り、寄付を募ったのが始まり。現在、毎年20カ国以上で開催され、世界中で約400万人が参加している。

SHIGA 滋賀

ニュースのご連絡は

大津支局 長浜駐在

〒520-0043 大津市中央1-3-2

☎ 077(522)6628(代) ☎ 077(594)6223

☎ (522)2689 ☎ 購読のお申し込みは

FAX 077(522)6710 ☎ 0120(34)3733

まよひの天気

北の風や強くも時々晴れ

南部

北部

26日(月) 27日(火) 28日(水) 29日(木) 30日(金) 31日(土)

週間予報.....大津

☀ ☁ ☔ ☁ ☀ ☀

街の話題や事件事故などの情報をお寄せください。

✉ **日メール**

otsu@sankei.co.jp

あすのこよみ

(26日)

旧9月14日

《仏滅》

月齢.....13.1

日出.....6:10

日入.....17:08

日出.....16:26

月入.....4:15

満潮.....5:34

干潮.....17:49

干潮.....11:43

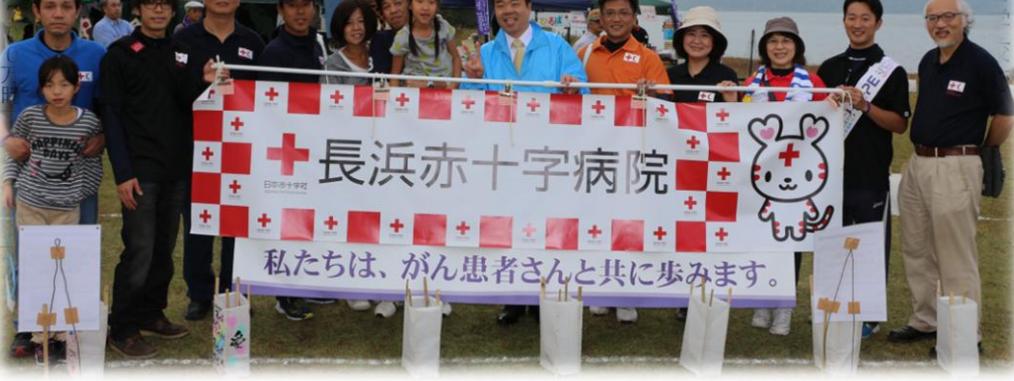
大潮.....(大阪港)

延べ700万時間 労災ゼロ

滋賀労働局、東レを表彰



国が定める期間中に労働災害がなかったとして、滋賀労働局は、東レ滋賀事業場(大津市)を表彰した。



国が定める期間中に労働災害がなかったとして、滋賀労働局は、東レ滋賀事業場(大津市)を表彰した。同事業場の表彰は平成10年度以降、7回目。

厚生労働省では、一定期間労働災害がなかった事業場を表彰し、その経緯を記録し、

表彰を授与し、証状と制作している。従業員は、従業員延べ700万時間、労災ゼロを達成し、

また会場には、医療相談ブースや飲食ブースなども設けられ、ウォーキングの一休みも兼ねて多くの人が集まっていた。

自身も約15年前に肺がん

彦根の視覚障害者選抜に者らに対して、高等

を思い、まわりの人に支えられながら闘病したという仲川弘実行委員長(69)は、「がんはつらい病気だが、医療の進歩で元気に生活を続けられる人も出てきた。このイベントを通じ、『1人で苦しまないで一緒に闘おう』と応援していきたく」と話した。

